

## 被災地の「食」と「観光」を台湾でPRしました！

～東胆振地域の農産物を苫小牧港から台湾へ～

北海道開発局では、北海道胆振東部地震の復興支援の一環として、2月に台湾の北海道アンテナショップにおいて、被災地である東胆振地域の農産物の試食・配布による、「食」と「観光」のPR活動を行いました。

なお、この荷物は、北海道開発局で行っている実証実験として、昨年12月に苫小牧港から京浜港（横浜港）を經由して、台北港へ海上コンテナで運ばれたものです。

北海道開発局では、北海道総合開発計画における道産食品輸出額1,500億円（2025年）の実現に向け、「北海道国際輸送プラットフォーム（HOP）」や「農水産物輸出促進基盤整備事業による屋根付き岸壁の整備」など、道産食品の輸出拡大に向けた取組を行ってきました。

こうした道産食品の輸出に当たっては、輸出先ニーズの把握が困難、通関時の厳しい輸入規制、高額な輸送コストなど、多くの課題が存在することから、輸出先の消費者ニーズに合わせた商品改良効果の検証や必要な通関手続きの円滑化等について、本年度、実証実験を行っております。

本実験において、連携協力協定を締結した一般社団法人北海道国際流通機構の協力の下、被災地である東胆振地域の農産物を苫小牧港から台湾に輸出し、2月2日から4日にかけて、現地の北海道アンテナショップで農産物の試食・配布を行うとともに、被災3町の自治体観光パンフレットやポスター等の展示・配布を行いました。（別紙）

アンテナショップには、3日間で平常時の約3倍となる2,000人以上の方が来場し、被災地の農産品に対して高い評価を頂いたほか、地元バイヤーの今後の販売の検討につながる等の成果を得ることができました。

また、来場者の内、300人以上の方に東胆振地域の「食」と「観光」へのイメージに対するアンケートへのご協力を頂き、「東胆振地域に行ってみたい」という声が多数寄せられました。

北海道開発局では、今後も農産品の輸出を通じた復興支援や地域経済の活性化を目指して、取組を進めて参ります。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

港湾空港部 港湾計画課 港湾技術専門官 工藤 博文（内線 5617）

港湾空港部 港湾計画課 開発専門職 那須 達哉（内線 5617）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



# 被災地農産品の試食・配布

- 復興支援の取組は、2月2日～4日に、台湾最大級の複合テーマパーク施設「麗宝（リーパオ）アウトレットモール」にある道産品アンテナショップ「北海道新発見ファクトリー」（運営：株式会社タクミナフード<sup>注</sup>）にて開催。
- 3日間で平常時の約3倍となる2,000人以上の方が来場する等、会場は多くの来場者で賑わい、「北海道のとうきびやハスカップはとても甘くて美味しい」、「長芋は台湾でも人気があるから嬉しい」と高い評価を頂いた。
- 来場者からは「今後継続して販売して欲しい」といった声や、地元バイヤーが今後の販売を検討する等の成果を得ることができた。

注：（一社）北海道国際流通機構に所属する台湾企業



北海道開発局職員によるPRの様子



現地の方々に賑わう会場の様子



試食・配布された東胆振地域の農産品

ハスカップジャム、じゃがバター（厚真産）、とうもろこし（安平産）、長いも（むかわ産）、かぼちゃ、ハスカップワイン（苫小牧産）



会場（麗宝アウトレットモール）外観



# 被災3町の観光PRの様子

- 被災3町の観光PRについては、ポスター展示のほか、現地の言葉で書かれた看板で東胆振地域を紹介するとともに、北海道の「食」と「観光」へのイメージについてアンケートを行った。
- アンケートは、300人以上の方々からご協力頂き、「小樽や函館などが有名だが、東胆振地域は知らなかった」、「雄大な自然は台湾人のあこがれ」、「札幌は良く台湾の番組で紹介されているが、このイベントを通じて東胆振地域に行ってみたくと思った」等のコメントを頂いた。
- 今回のPRにご協力頂いた『麗宝（リーパオ）アウトレットモール』からは、「今後、北海道の情報発信や食品の販売を通じて、北海道と台湾がお互いに経済活性化して欲しい」と期待が寄せられた。



現地の言葉で紹介された看板



被災3町の観光ポスターの展示



アンケートに回答する台湾の方々



受付の様子